

菅直人 Naoto Kan

菅直人(かんなおと)は、1946年10月10日に山口県宇部市で生まれた日本の政治家、弁理士である。民主党(現・立憲民主党など)の結党に深く関わり、市民運動出身の政治家として戦後日本政治に新しい潮流をもたらした人物の一人である。家系に政治家はおらず、父は企業の技術者(のちに常務)という一般的なサラリーマン家庭で育った。

菅は東京工業大学理学部応用物理学科を卒業後、弁理士試験に合格して特許事務所を開設した。大学時代から学生運動に関わり、卒業後は市川房枝の選挙事務長を務めるなど市民運動を精力的に展開した。その後、数回の落選を経て1980年の衆議院選挙に社会民主連合から立候補し初当選、国政へと進出した。地盤・看板・鞆(資金)を持たない「市民派」の論客として、土地問題や税制をめくり政府を鋭く追及して知名度を上げた。

政界入り後は、1996年に発足した第1次橋本内閣で厚生大臣として初入閣を果たした。厚生大臣時代には、それまで官僚組織が隠蔽していた「薬害エイズ事件」に関する資料を情報公開させ、真相究明と被害者への謝罪を主導したことで、国民から絶大な支持を集めた。同年、鳩山由紀夫らと共に旧民主党を結成して共同代表に就任。以降、政権交代を目指す民主党のトップ(代表)や幹事長などの要職を幾度も歴任し、党の顔として歩み続けた。

2009年に民主党を中心とする連立政権が誕生すると、鳩山由紀夫内閣で副総理や財務大臣を歴任。2010年6月、鳩山首相の退任に伴い第94代内閣総理大臣に就任した。在任期間は2010年6月から2011年9月までの約1年3ヶ月であった。この在任中の2011年3月11日、東日本大震災および福島第一原子力発電所事故という未曾有の国難に直面した。菅内閣は危機対応にあたったものの、事故処理や避難誘導の混乱、党内抗争(いわゆる「菅おろし」)が激化し、政策運営は困難を極めた。その後、特例公債法や再生可能エネルギー特別措置法などの成立を条件に、2011年秋に首相を退任した。

総理大臣退任後も、菅は政界に留まり、国会議員としての活動を続けた。特に原発事故の経験から「脱原発」をライフワークに掲げ、再生可能エネルギーの普及を訴えるなど精力的に発信を行った。立憲民主党の最高顧問などを務め、長年にわたり国政の議席を維持した。

政治思想の面では、菅直人はリベラル・市民派の立場を取り、情報公開の推進や官僚主導政治の打破、環境政策を重視する政治家として知られている。感情が表に出やすい情熱的な性格から「イラ菅」とも呼ばれたが、その突破力と市民目線の政治姿勢は独自の存在感を放っていた。

菅直人は、市民運動から内閣総理大臣へと上り詰めた戦後日本政治において極めて稀有な経歴を持つ政治家であり、薬害エイズ問題の解決や原発事故対応など、激動の時代に国の舵取りを担った重要な足跡を残している。

